

幼児のテレビ視聴に関する研究

第8部 星 美智子

I 目 的

子どものテレビ視聴については、すでにいくつかの調査や研究があるが、その多くは小学校児童や幼稚園児を対象とした調査である。本研究は、2年保育に就園する前の幼児——3才児を主たる対象とし、また、調査のみ

でなく、実際の状況を観察記録したものに基づいて、子どものテレビ視聴の実態と、子どもへのテレビの影響を知ろうとすることが目的である。

II 方 法

本研究は、観察記録によるものと、質問紙形式の調査によるものとの二つからなっている。

1. 観察記録による調査

(1) 対象および調査日時

対象は東京都M団地内の幼児グループ参加者である。この集団は、当研究所で保育指導と母親教育をおこなっている1年間継続の3才児集団である。したがって、研究者が子どもと母親を熟知しており、観察記録の方法を詳細に指示できる対象である。

1966年1月に予備調査をおこなってから、その後、各年度とも、夏期と冬期2回ずつ調査を施行した。うち1回は、逐年的傾向を検討するため、すでに卒業した年度の子どもも対象とした。冬期は2月下旬～3月上旬、夏期は6月下旬～7月上旬（各年度により多少ずれがある）で、観察日は指定した土曜・日曜・月曜の連続した

3日間である。

各年度それぞれ35名内外であるが、記入に不備な点、疑点のある資料を除外したものを対象とした（第1表）。

(2) 観察項目

子どもが3日間、どのようにテレビに接するか、視聴の時間、テレビ局名、テレビ番組名、チャンネル権、一緒にみた人、子どもの臨場反応、テレビ視聴の影響とみられる言動などを、観察記録する（付録1、2参照）。

(3) 手続き

本調査の1週前に、1日間予備調査をおこなう。記録上の注意、記録用紙とも本調査とおなじものを用い、その結果につき、母親全員と話しあいをする。記入上の誤まり、困難のある個所など調整して本調査にかかる。調査日は土・日・月の連続3日間で、全員おなじ日である。したがって、外出や来客などのため日常のテレビ視聴とことなるばあいも、その日の状況をそのまま記入す

第1表 観察対象

Table 1. The Number of Children observed

ク ラ ス 年 度	夏 期			冬 期			1 年 経 過			2 年 経 過			計		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
'65				14	13	27①	9	5	14②	1	4	5③	24	22	46
'66	23	17	40①	16	18	34②				12	7	19③	51	42	93
'67	11	20	31①	8	23	31②	7	13	20③				26	56	82
'68	19	13	32①										19	13	32
'69	53	50	103	38	54	92	16	18	34	13	11	24	120	133	253

①……は調査回数 各回3日（延人数＝×3）

ることとする。

2. 質問紙による調査

(1) 対象

東京都内SおよびM幼稚園、横浜市内S幼稚園の園児を対象にして、母親に回答・記入を依頼した。対象を年齢別、男女別に示したものが第2表である。

(2) 予備調査

調査項目を作製し、当研究所に來所した乳幼児(0才～7才)各年令10名計70名に予備的に実施した。その結果から項目を整備し、自由記述を参考にして新たに項目に加えた方がよいものを追加した。

(3) 調査内容

調査は、1)テレビへの関心や映像理解の発達を知るための24項目、2)時間や曜日の観念に関する8項目、3)母親が子どもにテレビを見せるのに配慮している番組内容および視聴時間、4)子どものテレビ視聴について、現在母親が感じているテレビの功罪、5)その他——以上五つ

第2表 調査対象

Table 2. The Number of Children investigated

	男	女	計
3才	34	29	63
4才	98	93	191
5才	93	71	164
6才	51	52	103
計	276	245	521

の間からなり、3)～5)は自由記述とした。今回は対象を3～6才の幼児にしはったが、調査項目は0才児から小学校低学年までを対象に作成した(付録3)。

(4) 調査時期

1967年9月～10月に予備調査をおこない、1968年2月本調査を施行した。

Ⅲ 結果および考察

1. 観察記録による分析

(1) テレビ視聴量(平均視聴量の差の検討)

記録用紙に記入された視聴番組を、当日の新聞のテレビ番組案内と照合し、時間を確かめ、分単位の数字を記入して整理する。これを記録用紙の印刷にしたがい、横に集計すると、各テレビ局ごとの視聴量となり、各局の総計を算出すればその一日の視聴時間量が出る。このテレビ視聴量について、曜日別、男女別、年齢別、年度別、季節別の検討をおこなった。

1)曜日による視聴量 当日まったく視聴しなかったものを除いて、日曜、月曜、土曜の各曜日に別平均視聴量と標準偏差をみるとつぎのようになる。月曜と土曜の1日の視聴量の平均は約136分であり、日曜は50分近

	N	M	SD
日曜	144分	87.50	59.01
月曜	151	135.88	81.78
土曜	148	135.90	77.46

く少なくなっている。差の検定の結果、月曜と土曜では有意差なく、日曜と月曜では、危険率0.1%で日曜の方が視聴量が多いといえる。第3表は一日視聴量を30分ごとに区切って示したものである。月曜と土曜は差がないので、月曜を平日としてとりあげた。日曜の方が平日より視聴時間のズレが少なく、2時間以内に85%が含まれ

第3表 一日の視聴量別分布

Table 3. The Length of Watching Hour (a day)

	日	曜	平	日
時 分		%		%
0	8	(5.3)	1	(0.7)
～0:30	20	(13.2)	7	(4.6)
～1:00	36	(23.7)	18	(11.8)
～1:30	27	(17.8)	18	(11.8)
～2:00	21	(13.8)	19	(12.5)
～2:30	18	(11.8)	24	(15.9)
～3:00	10	(6.6)	16	(10.5)
～3:30	6	(3.8)	19	(12.5)
～4:00	2	(1.3)	10	(6.6)
～4:30	3	(2.0)	7	(4.6)
～5:00	1	(0.7)	6	(3.8)
～5:30	0	(・)	2	(1.3)
～6:00	0	(・)	4	(2.6)
～6:30	0	(・)	1	(0.7)
	N=152 (100.0)		N=152 (100.0)	

る。平日は2時間以内は60%で、4時間半以上のものが10%もいる。日曜が平日より視聴時間が少ないのは、従来の調査と逆の結果である(註1)。これは、日曜は幼児番組の放映が少ないことと、家族そろっての外出や来客などのため、テレビ接触の時間が限られるからであろう。

2)男女別 テレビ視聴量の男女の性別をみると、日曜、平日ともに、男子より女子の方が平均視聴量がい

		N	M	SD
日曜	男	63	82.62	50.13
	女	81	91.30	64.84
平日	男	67	138.59	70.97
	女	84	141.61	89.10

3)年令差 同じ日に調査した(68—夏)対象について年令別に視聴量の検討をしてみるとつぎのようになっている。

		N	M	SD
日曜	3才	32	85.81	57.97
	4才	15	77.00	33.72
	5才	17	75.00	43.65
平日	3才	31	111.55	68.58
	4才	19	100.26	46.97
	5才	17	78.53	36.85

日曜、平日ともに年令が低いほど視聴量が多い。しかし、いずれも有意の差となっていない。

4)年度による差 テレビ視聴量の年代的推移をみるため、1966年、1967年、1968年の冬期調査(平日のみ)をとりあげて比較してみる。この結果、年度ごとの有意の差はみられない。つまり、年ごとに視聴量がふえていく、あるいは減っていくということはない。テレビ設置後しばらくは、どの家庭も視聴量が多くなる傾向がある。したがって、年度によって変化がないことは、1966年はすでにテレビ普及過程の時期をすぎて、安定期に入った後であるといえる。

	N	M	SD
'66	27	126.68	57.30
'67	34	178.24	95.48
'68	30	138.47	80.85

5)夏期と冬期の視聴量 夏期と冬期では、子どものあそびの種類や活動量がことなり、当然テレビ視聴にも影響してくると思われる。平日(月曜)について、夏と冬を比較すると、冬の方が夏より平均18分多く、危険率 $0.2 > P > 0.1$ で冬の方が視聴量が多いといえる。

	N	M	SD
冬	91	143.74	84.60
夏	60	125.50	73.59

6)兄・姉の影響 3才児のばあい、弟や妹の存在はテレビ視聴にとくに影響を与えないと思われる。しかし、兄や姉のばあいは、チャンネル権や視聴番組など影響をうけるにちがいない。テレビ視聴量ではどうか、兄、姉のいるものといないものにわけて(夏期のみの平日)比べてみた。兄、姉のいるものの方が平均視聴量は多いが、これは有意の差になっていない。

	N	M	SD
兄・姉のいるもの	33	146.82	82.22
兄・姉のいないもの	65	121.62	78.41

(2) テレビ視聴量(相互関係の有無の検討)

1)知能と視聴量の相関 '66—'68の3年度にわたるグループ員について、知能指数(鈴木ビネー検査施行)と、夏期平日の一日視聴量との相関をとった。その結果は、

$$N=98 \quad r=-0.018 \quad PFr=0.069$$

となり、知能とテレビ視聴量とは無関係であることがわかる。つまり、知能が高いからテレビ視聴量が多い、あるいは少ないということはないといえる。

2)曜日ごとの相関 曜日によってテレビ視聴時間の相互関係があるかをしらべるため、1966年度グループと1967年度グループの夏期、冬期の調査について、それぞれの曜日ごとの相関をもとめた。Nは130である。5～7の相関は、この種のものとしては互いに相関が高いといえる。したがって、ある曜日にテレビを多くみるものは、他の曜日にもテレビを多くみるといえる。

日曜：月曜	$r=+0.520$	$PEr=0.043$
日曜：土曜	$r=+0.745$	$PEr=0.104$
月曜：土曜	$r=+0.544$	$PEr=0.131$

3)逐年の相関 テレビ視聴量の多い少ないが、半年、あるいは1年、2年と経過しても変動がないものかどうかをみるために、半年間隔、1年間隔、2年間隔において調査した結果の相関をもとめた。各土曜と月曜を対象に平日の相関をみることにした。

	N	r	PEr
半年間隔	51	+0.516	0.069
1年間隔	30	+0.187	0.119
2年間隔	36	-0.051	0.112

これによると、半年の相関はみられるが、1年経過すると.2以下になり、2年経過するとまったく相関はみられなくなる。すなわち、3～4才児のテレビ視聴量と、その子の5～6才時期のテレビ視聴量とは、かなりの

変動があるといえる。

(3) テレビ視聴時

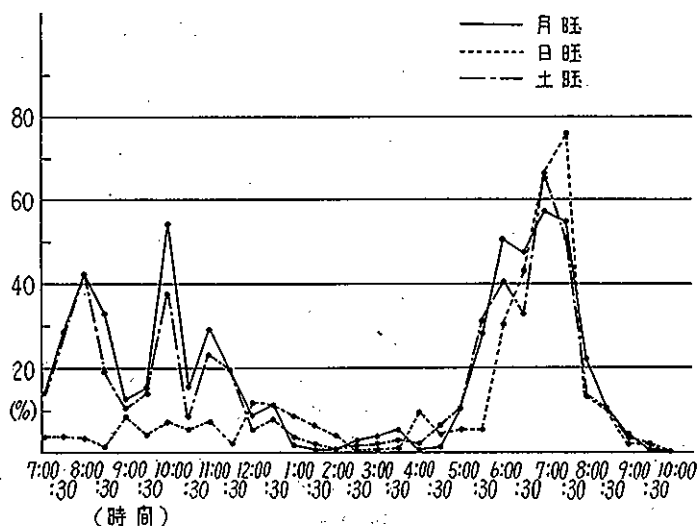
つぎに、一日の生活時間のながれとして、テレビ視聴の時間台による傾向をみでみる。調査用紙記入のテレビ番組が何時台であるか、午前7時から30分ごとに区切ってその分布をしらべる。30分に満たない番組のばあいも、その時間台にみたものとした。

1) 各年度(夏・冬)を対象として、曜日ごとに視聴時間台の分布をみると第1図のようになる。まず、月曜と土曜は同じ傾向を示し、平日として同じに考えてよい

と思われる。日曜と平日はかなり異ったカーブを描き、そのちがいを示している。平日は午前中に8時と10時に約40%と55%の二つの山がみられ、11時台にまた30%の視聴がみられる。これに比較し、日曜は午前中はどの時間も10%にみだない。昼ごろは12時から2時にかけて、平日より日曜の方が多く視聴している。夕方再び視聴する者が多くなるが、平日は5時半ごろから上昇するのに比べ日曜は6時からと30分おくられている。一日でもっとも視聴率の高いのは、平日が7時台で65%、日曜が7時半台で76%である。ここでも日曜は平日と30分ずれている。

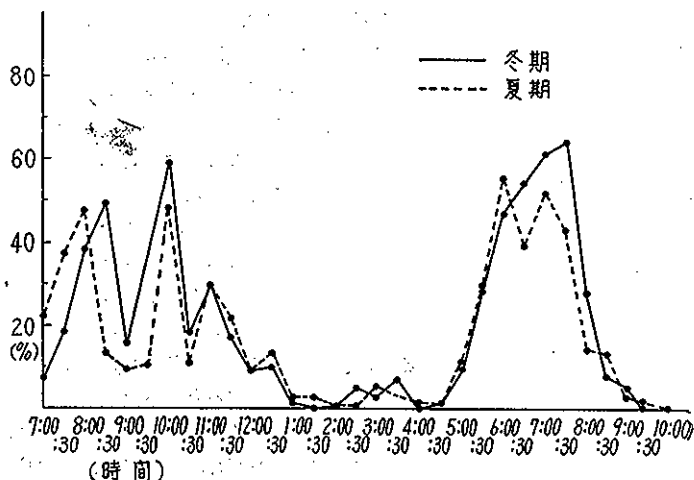
第1図

Fig 1. The Times when the Children watched T.V.



第2図

Fig 2.



2) 平日の時間台分布を、夏期と冬期にわけて比較してみたのが第2図である。朝の7時台、7時半台は、夏期の視聴率は冬期の倍以上になっている。そして8時半まで、冬の方が30分おくれながら夏と同じような上昇カーブを描いている。日中から夕方にかけては夏と冬の差はさしてみられない。夏は夕刻6時台が55%、7時台52%で二つの山をつくっているが、冬は6時台47%から8時台64%まで順次上昇していく。冬期の平均視聴量が夏期よりも多いのは、この時間台図表をみると明らかである。すなわち朝8時半から10時半のあいだと夜6時半から8時までに差がでている。これは午前中は夏は戸外あそびなどで冬よりテレビ接触が少なく、夕刻は冬期は暖房などの関係で家族が居間に集まるため、テレビ接触が夏より多くなるのだと思われる。

(4) 視聴内容

つぎに、テレビ視聴の内容を知るため、子どもの視聴したテレビ番組の順位づけをおこなった。

1) 年令別 3才、4才、5才といっせいに調査できた1968年夏の平日(月曜)の視聴番組上位のものをみると第4表のようになる。3才児の1位である「おかあさんと一緒」は、10時台の番組であり、就園している4~5才児では当然ながら視聴者皆無である。他は、いわゆる幼児番組であるマンガ、児童劇、幼児参加番組に集中し

第4表

Table 4. Order of programs most watched by Children (by age)

'68—6月

3 才 N=32		4 才 N=19		5 才 N=17	
順位	人数	順位	人数	順位	人数
① おかあさんと一緒	14	① 魔法使いサリー	11	① あしたこそ	8
② 魔法使いサリー	10	② アニマル 1	6	② 魔法使いサリー	7
③ おはよう子どもショウ	9	③ ひょっこりひょうたん島	5	③ アニマル 1	6
④ コメットさん	9	④ ママと遊ぼうピンポンパン	5	④ おはよう子どもショウ	5
⑤ あっちゃん	9	⑤ おはよう子どもショウ	4	⑤ コメットさん	3
⑥ ママと遊ぼうピンポンパン	7	⑥ コメットさん	4	⑥ ママと遊ぼうピンポンパン	3

第5表

Table 5. Order of programs most watched by Children (by sex)

'67—2月

	男 N=16		女 N=19	
	順位	人数	順位	人数
土曜	① 悟空の大冒険	12	① 木馬座アワー	15
	② 木馬座アワー	11	② おかあさんと一緒	11
	③ おそ松くん	6	③ 悟空の大冒険	9
	④ おはなさん	5	④ おはなさん	8
	⑤ ニュース	5	⑤ おはよう子どもショウ	7
月曜	① マグマ大使	13	① 木馬座アワー	19
	② 木馬座アワー	12	② おかあさんと一緒	13
	③ おかあさんと一緒	7	③ おはなさん	11
	④ 魔法使いサリー	6	④ 魔法使いサリー	9
	⑤ ひょっこりひょうたん島	4	⑤ おはよう子どもショウ	8

ており、とくに年令的な差はみられない。したがって、年令的な検討は嗜好番組の検討でなく、同じ番組のうけとり方の分析が必要であるといえる。

2) 男女別 つぎに、男女別の番組内容をみてみる。男女人数の比較的同じであるグループ（'67—2月調査のもの）について、土曜、月曜それぞれの視聴番組順位をみたものが第5表であるが、3才児ですでに、男女の好みの差があらわれている。男子の方がマンガを好むものが月、土曜ともに1位を占め、女子は月、土曜どちらも人形劇が1位である。おなじマンガでも、男子は怪獣・冒険もの、女子は女の子が主人公のものと好みがちがっている。この傾向は、同時刻に対照的な番組が重

なったとき（'67—6月）に、はっきり表われ、男子は「マグマ大使」が圧倒的に多く、女子は「魔法使いサリー」の方に傾いている。

3) 兄、姉のあるものとないものの番組順位をみると、兄・姉のある子は、マンガが1位となり、兄・姉のない子は幼児教育番組（おかあさんと一緒）が1位となっている。これは、さきに年令別で検討した5才児と3才児のちがいと同一傾向である。したがって、兄・姉のあるものは、3才児より5才児に近い番組をみているといえる。つまり、兄・姉の影響をうけてテレビ視聴していることが明らかである。

(6) 視聴状況

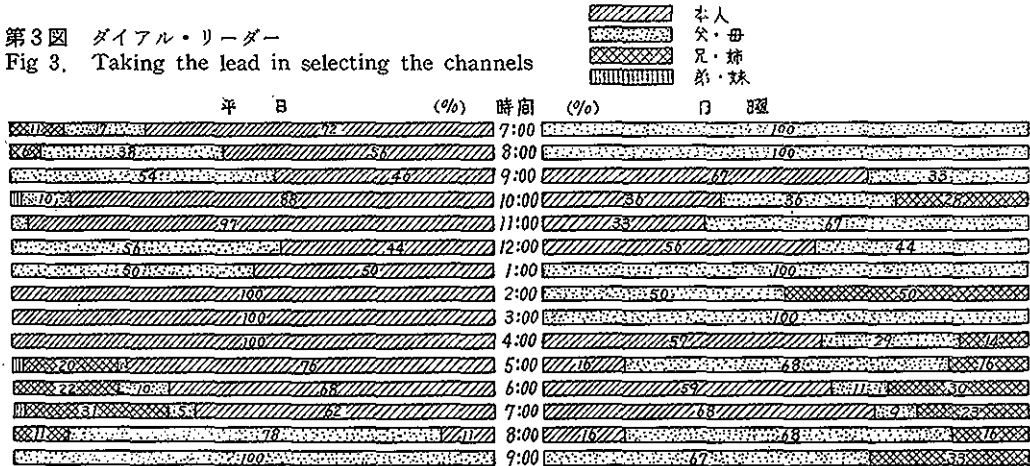
1)番組選択権(ダイヤル・リーダー) 3才児は、テレビ番組の選択権——いわゆるチャンネル権をどの程度もっているのかをしらべてみる。一日の時間推移によっても異なるので、1時間おきに区切って、誰がダイヤル・リーダーであったかを集計した。これは3才児が視聴した番組についてである。資料は'66、'67、'68の冬期調査の日曜・月曜である(第3図)。これで見ると明らかのように、平日と日曜では傾向がちがう。3才児のダイヤル・リーダーは平日の方が多い。平日は夜8時以後は別として、他の大部分は自分の意志で番組選択をしている。また母のチャンネル権と相半ばするのが、番組内容をみるとニュースショーの時間である。日曜は朝9時台と夕方6時7時台に3才児の番組選択がつよい。兄・姉は平日の通学・通園中の時間をのぞいて多く、日曜は午前10時台と午後2時、それから夕方4時以後ずっと夜までチャンネル・リーダーがのびている。

対象資料の兄・姉は小学校低学年までが圧倒的に多く、それぞれ番組選択の争いはあっても、年齢が近いので興味の全くちがう番組ということはないらしい。なぜなら、これは視聴態度の分析でも明らかであるが、兄・姉の選択した番組も、本人は熱中して試みているからである。兄・姉も心得ており、番組選択のとき「サリィは可愛い女の子よ」、「すごい怪獣がでるよ」などと自分のみたいのものの方へさそっている。

2)視聴の相手 つぎにテレビ視聴を誰と一緒にみたかを時間台によってしらべた。①本人だけ、②父・母(父か母、あるいは両親)、③兄・姉、④弟・妹、⑤その他の家族(祖母など)、⑥友人にわけてその比率をみたのが第4図である。友人は平日だけにみられる。また、ひとりだけでみるのは平日に多く、日曜日は殆ど家族といつしよに視聴している。兄・姉が家庭にいたるときは、いつも一緒に視聴しており、兄・姉の側からとりあ

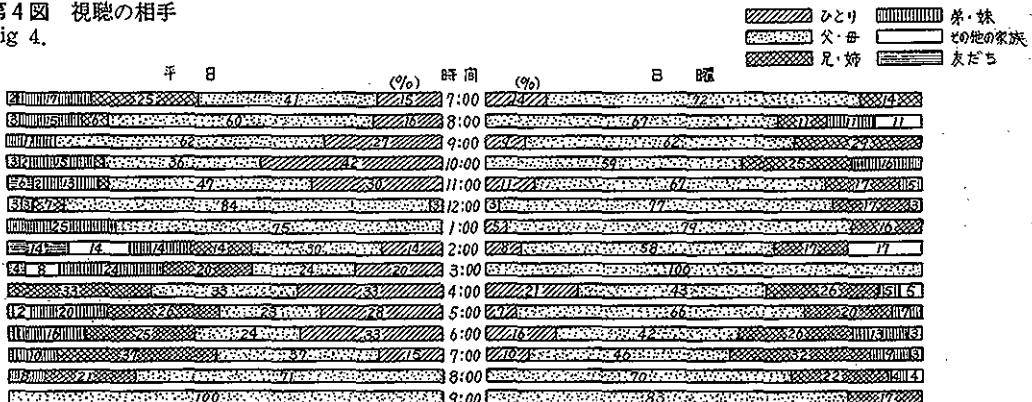
第3図 ダイヤル・リーダー

Fig 3. Taking the lead in selecting the channels



第4図 視聴の相手

Fig 4.



げれば3才児は視聴相手として100%となる。弟・妹のばあいは、乳児をのぞけば、兄・姉と本人との関係のようになっている。つまり、弟・妹は3才児のチャンネル選択にしがたって一緒に視聴している。視聴相手が父母のばあいは、日曜と平日では相当ちがいがみられ、当然ながら日曜に多くなっている。

3) 視聴態度 番組視聴時の態度や臨場反応は、熱心にみている、身体と一緒に動かしたり歌ったりする、テレビに応答したり、母に質問したりする、感動を表現する、などの反応と、あそびながらみている、食事しながらみている、部分的にみにきたりするなどの反応に二分できる。すなわち、積極的な視聴とそれほどでもないものである。3才児のばあいは、いわゆる「ながら視聴」はできない。食事をしながらテレビをみるというような注意配分は不可能で、どちらか一方になる。したが

って遊びながらなどのながら視聴は、熱中でない方に分類した。おなじ遊びでもテレビ番組内容にあわせての遊びは勿論積極的な視聴態度とした。'67の6月平日一日の記録から、視聴上位番組について、視聴態度の熱中度をしめしたのが第6表である。これで見ると視聴番組順位と受け手の興味は比例していないことが明らかである。いわゆる「視聴率」でテレビ視聴を論ずることの無意味さを指摘できる。熱中してみている子がゼロであるニュースが視聴率では3~4位にランクされる(この視聴率は、テレビを消すとおこる、部分に反応してみている程度を限度としている。したがって、テレビ放映中の部屋に子どもがいるというだけのものは含まれない)。また、チャンネル・リーダーが本人あるいは兄・姉のときは熱中度がたかく、父・母のばあいは消極的な視聴態度にすぎないことも明らかである。

第6表 視聴上位番組の熱中率

Table 6. Relations between the order of most watched programs and the children's eagerness to watch them

順位	番組名	人数	チャンネル・リーダー				積極的視聴の比率 (%)
			本人	兄・姉	父・母	無記入	
1	おかあさんと一緒	14	79%	7%	14%	0%	86
2	旅路	13	0	0	100	0	15
3	カエルの冒険	12	75	25	0	0	83
4	ニュース	12	8	0	92	0	0
5	フリッパー	11	73	18	9	0	64
6	マグマ大使	10	70	30	0	0	80
7	まほう使いサリー	7	29	71	0	0	100
8	おはよう子どもショウ	6	66	17	0	17	34

つぎに、子どもの具体的な視聴中の反応をみでみる。
'67-6月の3日間について調べてみるとつぎのようになる。「じっと熱中してみている」という反応はもっとも多いが、これは記入していないものもあり、全体的反応でもあるので除外し、外に表現される反応だけをとりあげた。したがって「笑う」も声を出しているものだけである。

一緒にうたう	30%
一緒に動作する	8
笑う	36
「キャーッ」「ヘーッ」など奇声を出す	14
「カッコイイ」「スゴイナ」など感動する	14
「コワイ」「夢ニル」など恐怖の表現	10

「フッ超特急!」など画面を名指しする	10
「ハーイ」など画面に応答する	10
「ママ、アレ、悪者ダヨ」など説明する	8
「ヘンナノ」などと批判する	6

以上のように、3才児の視聴には、声を出したり大きな動作のともなう反応が多くみられる。3才児の未分化な精神構造の現われとしてみれば、この反応はむしろ少なすぎると思う。これは記録が母親の印象によるためのもので、GSRやテープレコーダーを使用した記録であれば、より一層の反応が把握できよう。

(6) 視聴内容の影響

視聴内容の影響は長期にわたって観察しなければ判明しないものもあり、さまざまな因子と重複してテレビの

影響ととりだしていえないものもありで、子どもがテレビ内容からどのような影響をうけたかをとりあげることは困難である。ここでは、視聴し終ってから、その日のうちにあらわれたテレビ内容の模倣行動をとりあげて、影響の一部をさぐってみたい。

模倣行動を、1)テレビの登場人物になって発展させるあそび、2)部分的なことばや動作の模倣、3)視聴番組のテーマソングをうたう、4)内容を理解してまねする(おもちゃをつくったり、日常生活のしつけに結びつけている)の4つに分類してみた。この模倣の他に、内容の一部をあとで家族に説明したりする行動もみられる。とくに昼間留守している父への報告、それも、ニュースの印象的なできごとの報告が多い。もちろん、3才児の報告は「地震がアツタヨ」「事故デ死ンダヨ」など部分的で、そのことばでニュースの全貌を知ることはできない。また、テレビ内容に関連して視聴後質問をしたり、子ども図鑑をだして眺めたりする行動もみられる。これらの行動を、'67—6月調査の3日間の資料から分類してみるとつぎのようになっている。

- | | |
|--|-----|
| 1) テレビ登場人物のごっこあそび
(ウルトラ、マグマ、パーマン etc.) | 17% |
| 2) 動作やことばの模倣
(水泳のとびこみなど) | 12% |
| 3) テーマソング、CMソングをうたう | 12% |
| 4) a 内容を模倣してものをつくる | 4% |
| b 日常生活・しつけの面に反映
「TVデゴハンヲ沢山タベマシヨウ
ッタイタノ」といって残さずにな
べるなど | 4% |
| 5) 家族にテレビ内容を説明する
(ニュースで知った事故を父が帰宅した
ときに報告するなど) | 10% |
| 6) 内容に関連した知識をひろめる
(質問したり、子ども図鑑でしらべる) | 6% |

以上は、当日視聴したテレビ内容に関連して、その子どもにあらわれた言動である。当日だけの、しかも母親の前での反応に限ってみても、これだけの反応があらわれており、3才児のテレビ視聴の積極的態度とともにその影響の大きさを知らされる。

2. 質問紙による調査結果

(1) テレビ所有状況

1) 所有台数 まず、テレビ受信機の有無、および所有台数についてしらべた。台数は破損して買い換えたものを2台とせず、現在使用している台数をしらべる。

第7表 テレビ所有率

Table 7. Possession of TV set

	なし	1台	2台	3台	計
3才	・	24(75) [%]	8(25) [%]	・	32(100) [%]
4才	1(1) [%]	95(78)	22(18)	3(3) [%]	121(100)
5才	・	121(80)	25(17)	5(3)	151(100)
6才	・	73(76)	23(24)	・	96(100)
計	1(0.3)	313(78)	78(19.7)	8(2)	400(100)

第7表はテレビ所有率を年齢別にみたものである。これで見ると明らかなように、年齢にかかわらず、テレビ1台のものの約80%、2台以上のもの20%となっている。テレビを所有しないものは、400人中1名(0.3%)である。2台目の普及は、1台より番組選択が自由になっていくことであり、これまでのテレビと家族の関係がテレビと個人との関係になっていくことである。一家庭に2台、3台とふえれば、人びとのテレビ視聴の態度は変化していくことになる。

2) テレビ購入時期 子どもが何才からテレビに接しているかをみるため、各年齢別に、テレビ購入のときの子どもの年齢をしらべてみる。3才児は97%、4才児は90%、5~6才児は75%のものが、すでにテレビのある家庭に誕生している(第8表)。したがって現在では、テレビの影響、テレビとの接触なしに、子どもの成長発達をとらえることはできないといえる。

(2) テレビ視聴方法の発達

質問項目Ⅱの24小項目(付録3)は、子どものテレビへの接触のしかた、視聴中の反応のしかた、好きな番組のえらび方やスイッチのいれ方などについての質問である。この回答を男女別、年齢別(半年ごと)に集計した。結果をみると、各項目とも男女の差はみられない。したがって、男女の総計による年齢差を検討する。

1) 初歩的視聴 a テレビへの接触、b 画像への反応、にわけて、テレビへの接近過程をみると、a、bともに、第9表にみるよう、3才児ですでに下降線上にあることが明らかである。これらの初歩的テレビ接近については、2才以下の年齢段階で殆どの子が水準に達しているといえる。cは、テレビ内容の記憶をとおして、内容の理解をみたものである。部分的な記憶であり初歩的な理解であるが、a、bよりは意味をもったうけとり方といえる。ことばや歌の模倣は3~6才を通して80%近くになっている。また商標をみて、「三菱」「ナショナル」などという子が60%前後である。CMと番組と結び

星：幼児のテレビ視聴に関する研究

第8表 テレビ購入期

Table 8. Time when TV set was purchased

年齢	購入期	誕生	0才	1才	2才	3才	4才	5才	6才
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1 台 目	3	96.9	.	3.1	.	.	.	.	.
	4	89.3	4.1	2.5	0.8	2.5	0.8	.	.
	5	89.4	2.6	4.0	1.3	2.0	0.7	.	.
	6	80.2	7.3	2.1	6.3	2.1	1.0	.	.
2 台 目	3	12.5	.	3.1	3.1	6.3	.	.	.
	4	2.5	1.6	4.1	2.5	6.6	4.1	.	.
	5	3.3	.	.	3.3	6.0	4.0	3.3	.
	6	1.0	.	1.0	1.0	5.2	5.2	7.3	4.2

第9表 初歩的視聴

Table 9. Rudimentary watching Attitudes of children

		3才	4才	5才	6才
	N	63	191	164	103
a	テレビがつくとその方を見る	56.3%	45.1%	45.0%	29.2%
	テレビの音にあわせて身体を動かす	46.9	25.4	23.8	17.7
	特定のテーマ音楽、CM音楽に反応	59.4	62.3	55.0	46.9
	テレビのチャンネルをいたづら	21.9	18.0	19.9	12.5
b	テレビ画像をまねして身体を動かす	40.6	25.4	27.8	24.0
	テレビ画像に興味をもつ	53.1	39.3	37.1	31.3
	テレビ画像をみながら笑う	71.9	73.0	75.5	68.8
c	あとで、コトバや歌をまねる	84.4	78.7	81.5	78.1
	テレビをはなれて商標を名指す	62.5	55.7	60.3	65.6
	コマーシャルと番組が結びつく	46.9	62.3	68.2	67.7

ついて知っているものは3才児で50%もみられ、5～6才では70%に達している（第9表）。

2) 視聴方法の発達 a 好む番組をみるためのチャンネル操作をみると、つぎのようになる。

	3才	4才	5才	6才 (%)
母親が子どもの好きそうな番組をみせてやる	56.3	43.4	35.1	21.9
今日のテレビ番組に何が あるかを母にきく	87.5	53.3	49.7	18.8

その都度チャンネルをまわして好むものをさがす 12.5 27.9 30.5 18.8
見終るとスイッチを切り、テレビを消す 40.6 48.4 48.3 49.0

母親がみせてやるのは3才児では56%だが、年齢とともに減じて6才では20%になる。母に「今日ノマンガハナーニ？」などときいて、その日に自分の好む番組があるかどうかを知るのは、3才児の大部分を占めている。これも年齢がすすむにつれて少なくなっている。その都

度チャンネルをまわして好きな番組をさぐりだすのは意外に少なく、4～5才児の30%前後が多い方である。見終ってテレビを消すことは3才児40%、4～6才児50%と、年令的な差がみられない。したがって、半数近い幼児は、視聴番組終了後、スイッチを切る習慣がついていないといえる。

b さらに、子ども自身が操作するばあい、その方法をみると、つぎのようになっている。自分で操作するには、まず、好む番組放映の曜日と時間を知っていなければならない。曜日と時間を比べると、曜日を知る方が先きであるが、正確には時間を先きにおぼえるといえる。

	3才	4才	5才	6才
好きな番組のある曜日を 知っている	34.4	34.4	68.9	64.6
好きな番組が何時から かを知ら知っている	18.8	41.0	65.6	82.3
好きな番組の曜日と 時間を知っている	12.5	34.4	57.0	80.2

ということは、曜日は日曜は3～4才児でもわかり、日曜だけでも好きな番組のある曜日を知ら知っていることになるからである。日曜と比べ、平日の曜日と番組の結びつきはかなりおくれる。時間の方は3才から6才に上昇していくのが明らかで、6才では80%以上が好む番組の時間を知っている。6才児は曜日よりも時間を知っているものが多くなる。この時間と曜日の比は、6才でおとなと同じ傾向になるといえよう。曜日・時間ともに知ら知っているのは、3才12%から順次すすんで6才で80%になっている。5才児は半数以上、6才児は大部分のものが、好きな番組の放映時を知っている。

c つぎに直接のチャンネル操作法についてみる。下記にみるように、3才児は母親にチャンネルをきいて数字をあわせるものが50%でもっとも多い。4才児になると、この他に、大体の時間を見計らってダイヤルをカチャカチャまわしてさぐる、好きな番組のチャンネルを知っている、がそれぞれ半数になっている。5才児は70%以上が好きな番組のチャンネルを知っており、曜日・時間・チャンネルを知って操作するものが半数近くになってくる。これが6才児になると、曜日・時間・チャンネルを知っていて操作するものが72%になり、新聞の番組案内欄を利用するものも18%みられる。

	3才	4才	5才	6才
大体の時間を見計らい、 ダイヤルでさぐる	12.5	40.2	37.7	29.2
母にチャンネルをきき、 自分で数字を合す	46.9	43.4	39.7	11.5

好きな番組のチャンネルを知っている	34.4	49.2	74.2	66.7
時計をみてチャンネルまわしてさがす	0	9.0	13.9	24.0
曜日と時間をおぼえて 知っている	6.3	18.0	35.1	45.8
曜日・時間・チャンネルを知って操作	3.1	18.0	47.0	71.9
新聞をみてみたいものを えらぶ	0	4.9	7.9	17.7

(8) 時間観念の発達

1) 時計の読み方 3才児はまだ時計をよむことはできない。部分的に12時をおひる、3時をおやつと結びつけて読む程度である。4才児は短針をよむ子が3割をこえ、5才52%、6才で65%となっている。分針はさらにずっと困難で、時計を何時何分とよめるのは6才で15%である。

	3才	4才	5才	6才
短針がよめる	9.4%	33.6%	51.7%	64.6%
長針30分など大まかによめる	0	8.2	13.2	43.8
何時何分とよめる	0	1.6	7.9	14.6
何分前というよみ方ができる	0	2.5	5.3	8.3

2) 曜日の観念 日曜日は3才児でも60%がわかる。5才児では土・日曜は大部分のものが知っている。6才になると曜日を正しくいえるのが75%、今日は何曜日とわかるのが50%となっている。

	3才	4才	5才	6才
日曜日がわかる	59.4	64.8	82.4	100.0
土曜・日曜がわかる	25.0	40.2	69.4	99.4
曜日を順序正しくいえる	6.3	20.5	45.7	74.0
今日何曜日がわかる	3.1	8.2	21.2	49.0

以上、時間観念についてはテレビ視聴の発達と関係があるので、補足的に質問項目に含めたものである。ただ、母親の回答であるため、結果の割引きを考えなければならないと思っていたが、結果は、実際に子どもにテストしてみた割合とはほぼ一致している。

(4) テレビ視聴への親の配慮

1) 内容についての配慮 視聴番組の内容について、親が気を配っているかどうかをみると、

	配慮している	配慮していない	無記入
N	349	73	99
(%)	(67.0)	(14.0)	(19.0)

第10表 みせたい番組、みせたくない番組

Table 10. Programs desirable and undesirable for Children

み せ た い 番 組		み せ た く な い 番 組	
幼児・教育番組	25.7	刺激のつよいもの	16.7
子どもにふさわしいもの	21.5	低俗、つまらないもの	12.9
マンガ	7.5	ことばづかいが悪いもの	12.9
子どものためになるもの	7.2	おとな番組	8.6
音楽番組	3.5	マンガ	1.7
自然界をえがくもの	3.2	歌謡曲	1.4
子ども同志の話題になるもの	2.7		
その他	3.7		

となり、大部分の親は子どもの視聴内容について心づかいをしている。つぎに、どのような配慮をしているか、親の見せたい番組、見せたくない番組について分類してみた。年齢差はみられないので、全体についてこれを示したのが第10表である。表中の数字は配慮しているもの349名についての比率である。

みせたい番組の方が、みせないようにしている番組より多い。放任やみせない番組が多いより、みせたい番組が多いのは、親のテレビへの積極的かまえとして望ましいといえよう。

2) 時間についての規制 視聴時間について何らかの配慮、規制をしているかどうかをみると、

	規制している	規制していない	無答
N	439	16	66
(%)	(84.2)	(3.1)	(12.7)

で、84%のものが子どものテレビ視聴時間について配慮をしている。具体的にどのように配慮しているかをみるとつぎのようになっている。

見る時間をきめている	22.8%
連続長時間みせない	17.6
食事中みせない	9.6
夜おそくまでみせない	4.6
朝はみせない	1.4
その他	1.9

「見る時間をきめる」のなかには、時刻をきめているもの、視聴量をきめているものの両方が含まれる。自由記述のため、判然としないものが多く、「時間をきめている」という答え方が多数なので、時刻、視聴量別にできなかった。具体的な答えからは、時刻について223名、

視聴量について109名の回答をえた。時間量の規制についてみるとつぎのようになる。

時間量規制(単位:一日)

30分まで	6.4%
1時間	32.1
2時間	44.1
3時間	15.6
4時間	0.9
5時間	0.9

N=109

M=79.0分

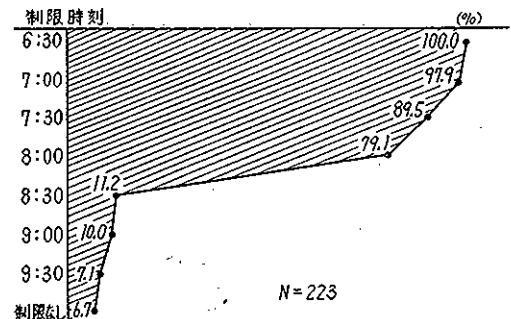
SD=4.74

時間量規制の親は全体の約5分の1の109名で、1日1~2時間の制限が多く、平均1時間19分になる。幼児の視聴平均(冬2時間24分、夏2時間05分)と比較して大変ひらきがある。これは制限をうけている子とうけない子の視聴量のちがいの大きさをものがたる。

制限時刻についてみると、6時半までは100%の子が

第5図 視聴制限時刻

Fig 5. Time limited for the Children to watch TV



視聴を許されている。7時半が90%、8時が80%で、8時半には12%の子を数えるだけである。大部分の幼児は8時以後は視聴を許されていないといえる。第5図は、幼児が何時まで視聴を許されているかを図示したものである。

(5) テレビの影響

テレビの影響を問うと、悪影響ばかりあげられるので、①困ること、②良いことにわけて質問した。その結果はつぎのように、困ることの方が幾分多いが良い点も60%のものがとりあげている。

	良 い 点		困 る 点	
あ る	312	59.8%	358	68.5%
な い	56	10.8	52	10.0
無 答	153	29.4	111	21.5
計	521	100.0	521	100.0

1) 良い影響 自由記述の回答をつぎの7項目のカテゴリーに分類した。百分率は、回答のなかったものも、良い影響なしとしたものも含めた全員に対する割合である。また、2項以上にわたっているものはその都度分類した。したがって、合計は100%とならない。

- a 知識を獲得する(社会的視野を広げる、自然界を知る、ことばをおぼえるなど) 29.5%
- b 判断力、理解力がのびる(視聴覚的特性によって子どもの理解を助ける、善悪の判断がついていくなど) 23.5%
- c 生活習慣に好影響を与える(放映時間にあわせて生活が規則正しくなる、模倣してよい行いをするなど) 7.7%
- d 人格形成上望ましい(おちつく、自主性が育つなど) 1.3%
- e 情操をゆたかにする(音感がよくなる、色彩感覚を育てるなど) 5.8%
- f 対人関係面の影響(家族同志の話しあい、理解しあいが可能である、友だちとのつきあいがスムーズになるなど) 4.6%
- g その他 0.6%

以上をみると、a、bの知識・理解といった知的な面での効用が多くあげられているのに、人格や情操面の良い影響はきわめて少ないといえる。

2) 悪い影響 子どもを育てるうえでテレビについて困っていることを、さきの良い影響とおなじ方法で分類した。

- a 健康上害がある(眼に悪い、姿勢がわる

くなるなど) 14.8%

- b 生活習慣を乱す(食事時間に視聴する、外あそびなど減る、寝る時間がのびるなど) 27.9%

- c 悪いことを模倣する(悪いしぐさ、ことばのまね、CMの商品をほしがると) 35.0%

- d 人格形成上悪影響をもつ(考えない子、子どもらしくない子、おちつかない子になるなど) 4.6%

- e 情操教育上望ましくない(残酷・暴力・怪奇など刺激がつよい、粗悪・低俗なものが多いなど) 15.0%

- f 対人関係上の困る点(家族と対話する時間が少なくなる、チャンネル争奪がおこる、友だちとつきあうための視聴など) 8.3%

以上、困る点は6項のカテゴリーに分類され、その他の項に含まれるものはなかった。これで見ると、健康についての問題は15%であるが、4名を除いた73名が眼が悪くなるといっている。'62の文部省調査では、健康上の害を案ずるものはわずか3~4%にすぎない。これは'62当時は視力への影響が予想されたにすぎなかったが、その後現実に子どもたちの眼に悪影響を与えていることを知らされたからであろう。「生活習慣を乱す」も前調査12~13%に比べて非常に多く30%である。生活習慣に悪影響を与えるもののうち75%(106名)は、夕食時間と幼児番組の重複による問題である。模倣行動は、直接目にふれるだけに多くとりあげられている。流行語、悪いことば、大人のことばとことばのまねを気にするもの90名、マンガの主人公の行動、動作のまねなど50名、テレビ人気もののマークのついた商品、CM宣伝の商品をほしがるとの44名となっている。

これらの具体的影響と反対に、dのように性格への影響を不安がっているものもみられる。eでは、刺激の強い恐怖番組の影響33名、低俗番組の影響45名である。幼児だけに性的場面の影響は7名と少なくなっている。fの対人関係では、チャンネル争いは21名であるが、これは兄弟だけでなく、おとながニュースをみようとしても、他局にマンガがあればみせないなど、親と子どもの対立も半数ある。家族の対話がなくなる(19名)は、さきの良い影響として家族の対話がふえる(18名)とほぼ同数である。これは、おとなの指導性によっては、テレビ視聴で対話を多くする機会をつくることができるといふことになる。

3) 質問紙では、補足的にVIその他「お子さんのテレビ視聴で気づいたことをかいてください」という問がある。勿論自由記述で、子どもの好む番組や視聴態度

などさまざまのことにふれられている。もっとも多いのは、番組編成や内容改善の意見と眼の衛生についてである。眼の保護のためには、距離を保って視聴すること、途中視聴を休むことの二つに注意しているようである。幼児番組への意見は積極的で、全局いっせいに夕方のマンガ時間台に、マンガの休み時間を設ければよい、7時までで子ども向け番組を打切ればよい、子ども番組内のCMにも教育的配慮がほしいなどである。幼児は、

理解できるものは限られており、子ども向け番組が放映されていなければテレビをみない。おとな向け番組を好まない年代である。したがって、幼児向けのプログラムいかにて幼児のテレビ視聴はどうにでも変えうるとさえいえる。このように、送り手側に働きかけることも問題解決の一策であろう。また、家庭内の子どもの正しい視聴態度の確立も現在の母親に課せられた新しいしつけの課題であると思う。

IV 要約と結論

就園前の幼児（3才児）を主たる対象として、年少幼児のテレビ視聴の実態とテレビの生活への影響を考察した。方法は、1)観察記録によるものと2)質問紙によるものである。

(1) 観察記録の結果

1) 3才児の一日の平均視聴量は平日2時間6分、日曜1時間28分である。従来の調査は5～6才児が対象であるが、これらは本研究と逆に、平日より日曜が多くなっている（62文部省調査）。就園前の幼児は平日家庭にいる時間が多く、平日の方がテレビ接触時間が長いといえる。また、日曜は放映番組に幼児番組が少ないということも理由のひとつであろう。

2) 男女では、女子の方が視聴量が多く、3～5才の年令別では、年令が低いほど視聴量が多い。しかし、いずれも有意差はみられなかった。なお、性別、年令別も、文部省の調査とは逆の傾向になっている。

3) ここ3年間にわたる平均視聴量の年度差をみたが変動なく、テレビ普及の安定期に達したといえる。夏期と冬期の平均視聴量は、冬の方が約20分長くなっている。子どもの外あそびや活動量が夏の方が多いためと思われる。

4) テレビ視聴量と子どもの知能の相関をみたが、相関はなかった。3才児では、テレビ視聴量と知能の高低は関係ないといえる。平日と日曜の視聴量の相関は.7とたく、平日の視聴量が多いものは日曜も多いといえる。逐年の相関をみると、半年間隔+.5、1年間隔+.2、2年間隔-.1である。3才児のテレビ視聴量から2年先の予測はできない。しかし半年後の視聴量との相関は高いといえる。

5) 視聴時刻は、平日と日曜ではかなり異り、日曜は夕方6時から7時半に集中し、平日は午前8時、10時台に50%近くが視聴している。これは放映側の幼児番組編成とまったく一致している。つまり、幼児番組が日曜の午前中にはないということである。

6) 視聴内容を知るため、視聴番組をみると、幼児番組、マンガ、児童劇に集中しており、3～5才の年令差は大差がない。おなじ番組をみてもその受け内容に年令のちがいががあると思われる。男女の好みの差は3才児でもみられる。兄・姉のいるものといないものの比較をすると、番組内容の差があり、兄・姉の影響をうけていることが明らかである。

7) 視聴状況をみると、平日は自分で番組選択をおこなっている子が多い。同時に視聴する相手は曜日、時刻によってちがう。日曜は父・母とみるのが圧倒的に多くなる。平日は友だちと視聴するものがみられる。

3才児は未分化のため、感動を外にあらわすので、臨場反応をとりやすい。この反応から番組への熱中度をみると、自分か兄・姉の選択した番組が高い。父・母の選択した番組は熱中度が低く、視聴番組上位のものでも部分的にしか反応していない。視聴率が高いことと受け内容の充実とは一致していないことが明らかである。視聴率のみを番組制作の指針とするのは危険であるといえる。

8) 視聴内容の影響では、その日のテレビに結びついた言動を母が目撃したものに限ってしらべた。その結果65%の関連行動がみられた。3才児のテレビ視聴の積極的態度と、その影響の大きさを考えさせられる。

(2) 質問紙法結果

1) テレビ所有台数は、1台が約80%、2台以上のものの20%である。2台目の普及は、1)番組選択の自由化、2)家族とテレビから個人とテレビの関係への移行といった変化をもたらすことになっていくであろう。

3才児97%、4才児90%、5～6才児75%がすでに誕生前にテレビのある家庭に育ってきている。テレビの影響ぬきに現在の子どもの精神構造は考えられない段階にきているといえる。

2) テレビへの初歩的接触は2才以下の段階で完成している。ことばや歌の模倣は年令を問わず80%前後みられる。商標をみて商社名をいったりするもの60%、CM

と番組の結びつきは3才児でも50%のものが知っている。これらの面の影響も大きい。

3) 好きな番組をみるのに、3才児は母親に今日は何かあるかをきいて知る。半ば以上は、好みそうなものを母がえらんでみせている。5才児になると、好きな番組の曜日や時間を知っているものが多くなる。6才児は80%の子が曜日と時間を知っている。チャンネルと番組を結びつけておぼえるのは5才ごろである。6才児になれば、適当な時間に、自分のみたくいものを知っていてチャンネルを合わせられる。見終わったあとテレビを消すのは3才から6才まで年令の差なく約半数を占める。残る半数はつぎつぎとダラダラ視聴の習慣をもっているといえる。

4) 時計のよみ能力をしらべたが、短針は4才児30%、6才児で65%あり、分針はずっとむずかしく、何時何分とよめるのは6才児で15%である。曜日は土・日は別として、6才児で曜日を順序正しくいえるもの75%、今日が何曜日かわかるもの50%となっている。テレビとの結びつきにより、時間の概念はより強くなってきているといえる。

5) 親が子どものテレビ視聴について配慮していることを、内容と時間にわけてたずねた。その結果、時間について84%、内容について67%が子どものテレビ視聴に何らかの規制をおこなっているといえる。内容については見せたい番組の方が見せたくない番組より多く、テレビへの期待がうかがえる。時間量は平均1時間20分、時刻は8時までの規制が多い。時刻は実際の観察結果と一致しているが、平均時間は40分のズレがあり、実際視聴量の方が多し。これは規制をうけない子の視聴量が多いこともあるが、母親が望ましいと思っている視聴量を子どもに徹底させられないでいるとも考えられる。

6) テレビの影響 良い点と困る点について質問した結果、良い点がある60%、困る点がある70%の回答をえた。自由記述を分類してみると、良い点では、知的な開発に役立つことが多くあげられている。その割に人格や情操面への良い影響はきわめて少なく、困る面が多くあらわれている。この点、幼児向け番組の内容を検討していく必要があろう。

困る点は、悪いことの模倣が多くあげられているが(35%)、親の目からみた悪いことが果してどれほどのも

のか、親の危惧の方が大きすぎると思われる。眼の衛生のために悪いとするものも15%あり、時間を区切って視聴させる、距離をおいてみせるなどの配慮をしている。母親が困っている問題は、テレビ視聴と食事時間の重複である。現在、子ども番組のまったくない時間に夕食をと思えば4時台か、8時すぎにせざるをえない。テレビ各局が、子ども向け番組を長時間集中編成していることにも責任がある。この他、家屋のせまさ、家族のながら視聴の習慣などの諸条件も、子どもに食事中テレビを視聴させないしつけができない理由になっていると思われる。

(3) むすび

本研究は、とくに観察のばあい、東京、給料生活者家族、ひとつの団地内、3才児と条件が一定の限られた対象についてのものである。従がって、こうした条件のもとでの結果と考えなければならぬ。しかし、一面では各個人の成長過程、家庭環境を知った上で資料を検討でき、より事実に近いものをうるることができたと思う。

3才児は4～5才児以上にテレビに接触しており、生活とテレビの結びつきが強い。テレビの影響も大きく、良いことや困ること、周囲の危惧などにかかわらず吸収しているといえよう。一日の視聴量や視聴時の反応など、テレビ視聴の実態を知るとともに、子どもとテレビの内的な結びつきの問題もいくつか明らかになった。テレビが知能の開発に役立つにひきかえ、パースナリティや情操面ではむしろマイナスの働きの強いことなどは、子ども番組製作上の示唆をあたえる。また、子どものいる多くの家庭に問題をおこさせる食事時間との関連での番組編成も、テレビ局のもう一步の工夫と開発がのぞまれる。

質問紙回答と観察結果とのズレは、家庭では母親の理想通りのテレビのしつけができていないことを示している。

テレビの送り手も、家庭での受け手も、いずれにしても、子どものテレビ視聴のしつけは、現代のおとなたちが新しく確立していかなければならない問題である。

註1 幼児の生活に及ぼすテレビジョンの影響報告書
(昭和36・37年度) 文部省

テレビの普及によって、テレビは、すっかり子供達の生活に入り込んでいるようです。子供達はいったいどんな番組を見ているのでしょうか、次の記入例及び注意をよくお読みになって別紙の検査用紙に御記入下さい。

時間	7時	8時	9時
チャンネル	1		
	3		
	4		
	6		
	8		
	10		
12			
その番組の内容		「パイ」まんが	「旅路」げき
			「このえほん」うた、たいそう
チャンネル	本人		
一緒にみた人	母		
見ている状態	じっと見ている	○	
	一緒に動き乍ら		○
	一緒に歌い乍ら		○
	食べながら		○
	遊びながら		
	感動を表わす (笑う、泣く、わめく、奇声等)		

その日影響を受けた言葉、動作 (飛行機ごっこをする、飛行機の話をする、飛行機に乗りたいという。)
 その他気づいたこと (ニュースの飛行機事故をととてもよく見ている。
 見たいのがあったのにチャンネル権をとられて怒る。)

- 注意 1. 表の時間以外にテレビをみた時は、これに準じて追加して下さい。
2. ちらちら見ている程度の場合は見ていないものとする。
3. 見ていないようでも消すと怒る場合は見ていることとして記入する。

こどもとテレビの調査
Investigation into Children and Television

視聴月日 昭和 年 月 日 (曜日)

子どものなまえ 生年月日 年 月 日

記入者名 母 ()

時間		7時30	8時30	9時30	10時30	11時30	12時30	1時30	2時30	3時30	4時30	5時30	6時30	7時30	8時30	9時30
チャンネル	1															
	3															
	4															
	6															
	8															
	10															
	12															
その番組の内容																
チャンネル権																
一緒に見た人																
見ている状態	じっと見ている															
	一緒に動き乍ら															
	一緒に唄い乍ら															
	食べながら															
	遊びながら															
	感動を表わす(笑う、泣く、わめく、奇声等)															

その日影響を受けた言葉、動作

その他気づいたこと

付3

No. 子どものテレビ視聴調査

子どもの名前	記入年月日 生年月日 年 月 日 年 月 日	年 才	月 月	日 日
--------	---------------------------------	--------	--------	--------

I テレビ購入の時期（該当を○でかこみ、記入してください）

1. 現在テレビがある 台 ない
2. テレビを購入した時期（こわれて買い変えたばあいは2台目としないでください）
1台目 この子どもの生れる前 2台目 この子どもの生れる前
子どもの 才 月ごろ 子どもの 才 月ごろ

II 現在お父さんはどのようにしてテレビをみますか。該当のところに○印してください。

1. テレビがつくとその方を見る
2. テレビの音にあわせて手足や身体を動かす
3. 特定の番組やコマーシャルの音楽がはじまるとテレビに近づく
4. テレビのスイッチやチャンネルをいたづらする
5. テレビ画像をみながらその動きをまねする
6. テレビ画像のうごきに興味をもって声を立てたり指さしたりする
7. テレビ画像をみながらおもしろがって笑う
8. テレビをみていないとき、テレビでおぼえたコトバやウタを口にする
9. テレビをみてないと、商標をみて会社の名をいう（「アッ、ミッピン」など）
10. あるコマーシャルがどのテレビ番組と結びついているかを知っている

1. 母親が子どもの好きそうな番組をみせてやる
2. 今日のテレビ番組は何かを母にきく（「今日ノマンガハ何？」など）
3. その都度はじめにチャンネルをまわしてみても自分の好きなものをえらぶ
4. 好きな番組が何曜日かを知っていて、「今日ハ何曜日？」ときいたりする
5. 好きな番組が何時からかを知っている
6. 好きな番組の曜日と時間を知っている。
7. 大体時間がわかり、その頃チャンネルをまわしてみても自分の好きなものをみつけだす
8. 好きな番組のチャンネルを母にきいて自分で数字をあわせる
9. 好きな番組のチャンネルを知っている
10. 時計をみてチャンネルをまわして好きなものをみつける
11. 好む番組の曜日と時間をおぼえていてチャンネルをあわせる
12. 好む番組の曜日と時間、チャンネルをおぼえていて自分でいれる
13. 新聞をみて見たい番組をえらびだす
14. 見終るとスイッチをきり、テレビを消す

III ① 時計

1. 短針がよめる
2. 長針が30分、15分など大まかによめる
3. 時計をみて何時何分とよむことができる
4. 時計をみて、何分前であるというよみ方ができる

② 曜日

1. 白曜日に「今日ハ日曜日」という
2. 土曜、日曜がわかる
3. 曜日を順序正しくいえる
4. 今日が何曜日がをいつもまちがえずにいえる

IV 子どもにテレビをみせるのにどんなことに注意していますか。

① 内容について

② 時間について

V ① テレビについて困っていることはどんなことですか

② 子どもをしつけるうえに、テレビのよい点はどんなことですか

VI その他、お父さんのテレビ視聴について、お気づきのことをかいてください。

Study on Television Watching by Young Children

Michiko Hoshi

Purpose

To know how the children—mainly of three years old—watch television and how television affects their daily lives.

Method

Mothers were asked to write down in the prepared paper the attitudes of their children observed when they watched television. Three days—Saturday, Sunday and Monday—were designated as the days for observation. The subjects were 253 children belonging to the Nursery Group for the three-year-olds.

Findings

1) Watching hour—The average length of watching television a day by the three-year-olds were: 2 hours and 6 minutes on week days and 1 hour and 28 minutes on Sunday. No difference was seen between boys and girls as to the length of watching hour, however, the length of watching hour differed in summer and winter the children watched television longer in winter than in summer. There was no correlation between intelligence and the length of watching hour. There was a difference in the watching time between week days and Sunday, which showed that the children's watching time corresponded to the time arranged for the young children's programs by Television Stations.

2) Most children watched such programs as educational program for young children, animated cartoons, and children's dramas. Even at the age of three years, boys and girls showed different preference for the programs.

3) Almost all three-year-old children took the lead in choosing the program on week days, but on Sunday they followed the choice of their parents. The children eagerly watched television when they took the initiative, or their brothers or sisters took the lead in selecting the channels.

4) Observing the behaviors of the children on the days when they watched television, 65% of them were in some way or other imitating the words, speech, songs and actions of the performers. This fact revealed the positive attitudes of the three-year-old children toward television-watching and the significance of the television influence upon the children.